

親の会 だより

第88号

発行日：H28.2.19

発行

岩手県ことばを育む
親の会

会長：主演友子

事務局

盛岡市立桜城小学校
きこえとことばの教室内

県親の会の活動報告

リーダー研修会

《期 日》平成二十七年九月五日（土）

《会 場》サンセール盛岡

県内各支部の役員・教室担当者、本部役員合わせて六十三名が参加して開催されました。

開会行事では、主濱会長から五十周年記念事業にかかわるお礼と、リーダー研修会がお互いに悩みを語り合う場となつてほしいという挨拶がありました。

全体学習会では、親の会参加である、盛岡市立杜陵小学校 指導教諭 森田 巧 先生より、理想的な親の会活動について具体的にお話していただきました。

分科会では、参加した支部を四つのグループに分け、各支部の状況について話し合いました。分科会報告では、他の分科会の話し合いの様子を交流しました。

各支部の協議は次のような内容でした。

① 幼児教室

現状

・ 幼児教室が設置されていない支部では、教育委員会に設置のお願いを働きかけている。



② 巡回指導

現状

・ 必要と考える支部が多かった。

助言

・ 市町村の状況を確認し、現状に応じた要望をすることが大切である。

③ 通級に対する交通費の支給やそれに代わるもの

現状

・ 地域によって、支給の有無が様々である。また、支給の条件や状況も違っている。

助言

・ 支部内の市町村によって状況が違う場合は、市町村の情報をそれぞれに共有する必要がある。

④ 軽度および中度の難聴児への補聴器の補助金

現状

・ 地域の難聴児の状況をつかんでいない支部がある。
・ 対象児がいないため、申請していない支部もある。

助言

・ 県本部でも毎年要望していくが、各支部でも地域の状況を確認し要望していく必要がある。
・ 自分たちの学校に難聴児がいなくても、補聴器の補助については理解している必要がある。

・ 指導を希望する人数が多い地区では増設を希望している支部もある。

課題

・ 幼児教室の担当者の研修機会の確保、身分保証等の条件についての課題。
・ 幼児教室に通う保護者が会員になる支部とそうでない支部がある。

助言

・ 各支部で幼児教室は担当部署や指導環境を確認して、良い環境で指導が行えるよう親の会の働きかけが必要である。

○軽度及び中度の難聴児は、「障害者手帳」をもらえません。そのため、補聴器購入の際、補助が受けられませんでした。補助してもらえないように、親の会で運動して、補聴器を購入時、補助が受けられるようになりました。

○補助に対する条令で、一度購入すると、五年以内は補助の対象になりません。

○補助の金額は、市町村によって違うようです。また、修理代の補助を出している所があるようです。各支部でも確かめてみてください。

⑤その他（支部のよさや課題）

現状

- ・複数の支部合同で、行事を企画し参加率の高いものとなった。
- ・新体制の役員について、メンバーの入れ替えも必要である。
- ・会員の数が減ってきたので、年間行事の持ち方を検討していきたい。
- ・小学校と中学校のつながりを検討していきたい。

助言

- ・教室の維持は、担当者の力だけでは難しいです。親の会員と担当者の両者の協力が大事です。
- ・支部のレクリエーションに学習会を抱き合わせるの企画を工夫してみても良いと思う。
- ・支部によっても、課題が違うので担当者と親の会が協力して運営して欲しい。

県本部としては、各支部のニーズを把握し、課題を解決できる動きをまとめていきたいと考えます。今後、各支部でも、近隣の支部との交流やブロック交流等も進めていただき、それぞれの課題に対応していただきたいと思います。



第三十二回幼児期の言語教育研修講座

《期 日》 平成二十七年 八月 二十二日（土）

《会 場》 いわて県民情報交流センター「アイーナ」

今回の研修講座は、県内の幼稚園や保育園(所)、こども園から、先生や保健師、学校関係者等、八十一名の参加がありました。

講演では、盛岡市社会福祉事業団 経営企画室長吉田康司先生に、幼稚園・保育園(所)での支援につながる実践についてお話していただきました。

全体講座では、「幼児のことばの発達」について、演習を取り入れながらのお話を聞きました。最後に課題別の三つの講座に分かれて研修を行いました。

今年度は、講座終了後

に相談時間を設けました。時間いっぱい質問されている様子が見られ、参加者の熱心さを伺うことができました。



東北ブロック代表者会議

《期 日》 平成二十七年十一月十四日（土）・十五日（日）

《会 場》 秋田県大潟村「サンルーラル大潟」

東北ブロック内の岩手・秋田・青森・宮城・福島の親の会役員が集い、平成二十六年年度の決算報告、全国大会佐賀大会の内容、各県の行政への取り組み、運営などの意見交換が行われました。（本県からは、会長主濱友子・事務局長 林 義明が出席）

これまでの歴代ブロック長に感謝状を贈ることが決定されました。本県は、故成田廣邦氏、白澤弘泰氏、佐々木信孝氏の歴代会長が受賞しました。本県の親の会活動は、他県からも高く評価されています。

すっぴんの会

《期 日》平成二十八年一月二十三日（土）
《会 場》盛岡市立桜城小学校

今年も「すっぴんの会（吃音のある子と保護者の交流会）」が開催されました。県内各地の「ことばの教室や幼児教室から子ども四十名、保護者二十九名、先生二十二名、合計九十一名が集まり開催されました。また、全国言友会連合協議会理事長（北海道言友会会長）南 孝輔さんも岩手で毎年行われているこの活動を知り、参加してくださいました。

レクリエーションや餅つき、親子分かれての語り合い等を行いました。親子でつくたてのお餅に様々なタレを合わせ、口いっぱい頬張り、おいしそうに食べていました。また、学年に分かれて仲良く遊んだり、高学年は吃音について話し合ったりしました。保護者の皆さんはことばの教室の担当者と共に話し合い、自分の思いや考えを交流し合うことができました。

ことばの教室の先輩や先輩の親御さんやたくさんの方の参加のお陰で、有意義な時を過ごすことができました。ありがとうございました。

リピーターも増えてきています。ことばの教室を終了したお子さんや保護者の方も大歓迎ですので、次回開催の際もたくさんの方の参加をお待ちしています。



※ 言友会は、吃音がある人のセルフヘルプグループ（自助グループ）です。セルフヘルプグループとは、同じ悩みを抱えている人たちが自分たちの問題を自分たちで解決していくこととするグループです。

セルフヘルプグループでは同じ悩みを抱える人が集まるので、他の人にはなかなか理解してもらえない悩みを共感できます。悩みを乗り越えている人がたくさんいるので、それを乗り越えるヒントを見つけることができます。

支部活動トピックス

県央ブロック交流会

十一月十四日（土）に、盛岡市立杜陵小学校において、県央ブロック交流会が開催されました。今回は、盛岡支部が主催し、紫波支部・矢巾支部の三支部の役員や先生方、十人が集まり、二時間程度の交流会となりました。

それぞれの支部の活動の様子を交流する内に、自分たちの支部でもできそうなことや、一緒に取り組んだ方がよいことなどが話題に上りました。また、それぞれの課題についても、情報を聞きながら考えることができました。例えば・・・「幼稚園や保育園（所）、保健センター等、ことばのことで困っている保護者が目にしやすいところへ、ポスターを貼ったり、チラシを配付したりする啓発活動」「通級している保護者が心理学の先生の話や聞く学習会」「賛助会員とのつながり」「巡回指導についてのアンケート」など・・・

盛岡支部長の若松世津子さんは、「お互いの話の中から発見するものがありました。各支部の活動に取り入れてほしいです。」と、盛岡支部事務局の森田 巧先生は、「隣の町でありながら知らないこともある。内容が深い交流ができたと思う。続けることが大事です。」と話していました。自分たちの活動を見直す機会となる交流会となったようです。

岩谷堂小学校ことばの教室

祝四十周年事業開催

十一月二十八日（土）に岩谷堂小学校ことばの教室開設四十周年事業が開催され、県親の会の小崎真樹副会長の講話により、親の会の歩みと今後の展望についての学習会を行いました。

岩谷堂小学校には、ことばの教室が二教室分設置されておりますが、現在は一教室運営されています。来年度以降、他校生が増え一教室での対応が困難になってくる状況です。親の会では二教室運営にむけ、教育委員会への要望を続けていくところです。